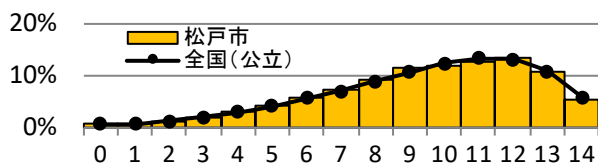


令和6年度全国学力・学習状況調査 松戸市の学力状況【小学校】国語・算数

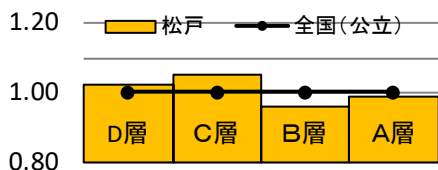
※令和元年度より国語A、B及び算数A、Bがそれぞれ国語、算数となって出題されています。

正答数と4つの学力層の分布

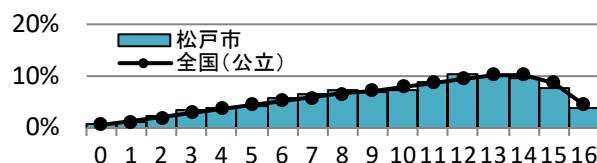
小学校 国語



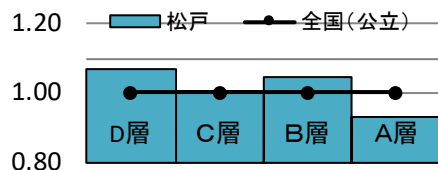
層	D層	C層	B層	A層
	0問～7問	8問～9問	10問～11問	12問～14問
松戸市	25.2 %	20.6 %	24.8 %	29.6 %
全国(公立)	24.6 %	19.6 %	25.8 %	30.0 %



小学校 算数



層	D層	C層	B層	A層
	0問～6問	7問～10問	11問～12問	13問～16問
松戸市	21.5 %	27.9 %	19.2 %	31.3 %
全国(公立)	20.1 %	27.7 %	18.4 %	33.7 %



【傾向と課題】

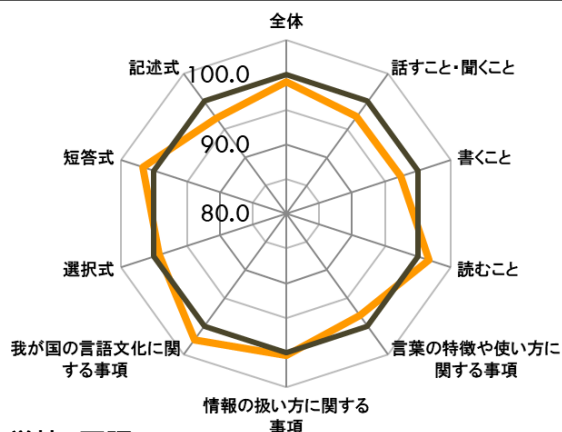
「正答数」について、国語・算数ともに、おおむね全国と同程度の分布状況です。

「4つの学力層」については、全国と比較し、国語はC層の割合が高く、B層の割合が低いこと、算数はD層の割合が高く、A層の割合が低いことが課題です。

3年間の推移(全国平均を100とした指数)

標準化得点	国語	算数
令和4年度	100	99
令和5年度	99	99
令和6年度	100	99
全国(国公私)	100	100

教科についての傾向と課題(各区分の全国の平均正答率を100とした場合の相対値を示す)



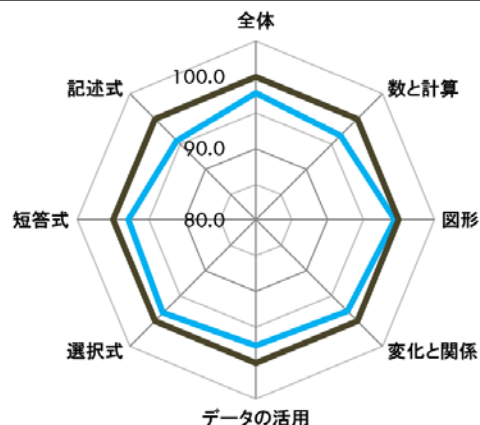
小学校 国語

【傾向と課題】

各内容・問題形式ともに全国平均と同程度ですが、内容「話すこと・聞くこと」「書くこと」や問題形式「記述式」については全国平均をやや下回っており、課題と言えます。

【改善のポイント】

話すこと・聞くことについては、生活から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する指導が必要です。書くことについては、事実と意見を区別して書くなど、考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導が必要です。



小学校 算数

【傾向と課題】

領域・問題形式ともに、全国平均と比べると若干下回っています。特に、問題形式「記述式」については、課題と言えます。

【改善のポイント】

学習活動の中で思考したものを、表現していく場面を多く設定していくことが重要です。

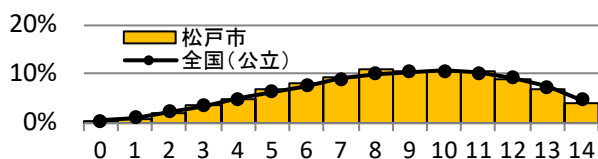
教師主導の授業形態だけではなく、対話的な活動を取り入れ、児童自身の考えを、言葉や文章、図や具体物等を用いて、相手に分かりやすく伝え合うことができるように指導・支援していくことが必要です。

令和6年度全国学力・学習状況調査 松戸市の学力状況【中学校】国語・数学

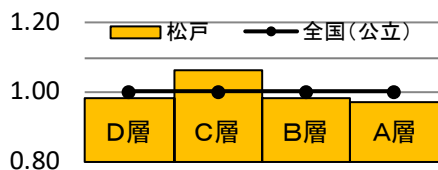
※令和元年度より国語A、B及び数学A、Bがそれぞれ国語、数学となって出題されています。

正答数と4つの学力層の分布

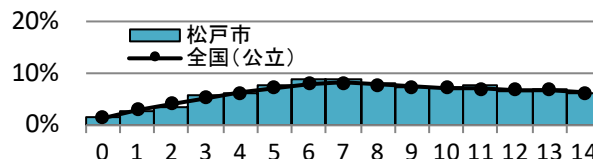
中学校 国語



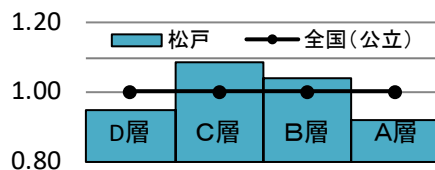
層	D層	C層	B層	A層
	0問～5問	6問～8問	9問～10問	11問～15問
松戸市	18.6 %	28.1 %	20.8 %	32.5 %
全国(公立)	18.9 %	26.4 %	21.2 %	33.5 %



中学校 数学



層	D層	C層	B層	A層
	0問～4問	5問～7問	8問～11問	12問～16問
松戸市	19.2 %	25.2 %	30.5 %	25.1 %
全国(公立)	20.3 %	23.2 %	29.3 %	27.3 %



【傾向と課題】

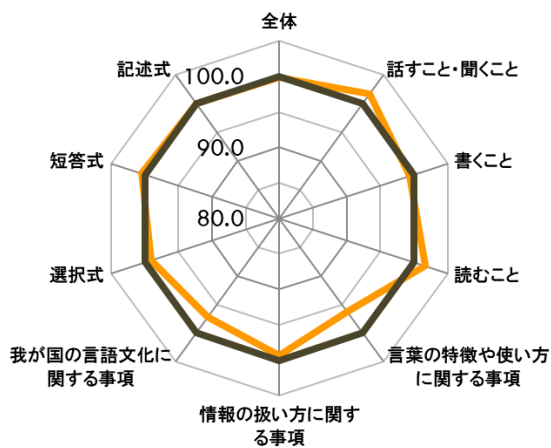
「正答数」について、国語、数学ともに、全国と同程度の分布状況です。

「4つの学力層」について、国語、数学ともに C 層の割合が高く、特に数学は A 層の割合が低いことが課題です。

3年間の推移(全国平均を 100 とした指数)

標準化得点	国語	数学
令和4年度	100	100
令和5年度	100	100
令和6年度	100	100
全国(国公立)	100	100

教科についての傾向と課題(各区分の全国の平均正答率を 100 とした場合の相対値を示す)



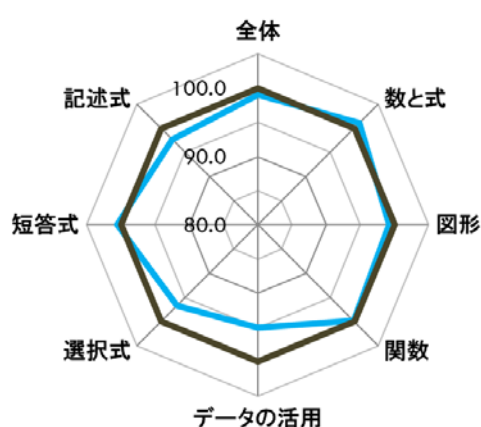
中学校 国語

【傾向と課題】

各内容・問題形式ともに、全国平均と同程度ですが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の領域について課題が見られます。

【改善のポイント】

言葉の特徴や使い方に関する事項については、文の成分の順序や照応、表現の技法等について理解し、知識と活用場面が結びつくように指導する必要があります。



中学校 数学

【傾向と課題】

領域・問題形式ともに、全国平均と比べると同程度と言えます。しかし、領域「データの活用」については、全国平均と比べると下回っており、課題と言えます。

【改善のポイント】

表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、批判的に考察し判断できるような課題の設定が必要となります。また、その判断理由を数学的に説明できるようにすることが大切です。

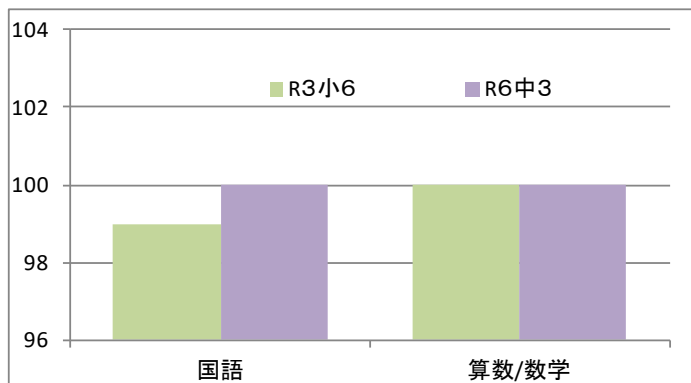
令和6年度全国学力・学習状況調査 同一集団の推移【R3 小学6年生とR6 中学3年生】

対象児童生徒数

	令和3年度 市立小学校の6年生	令和6年度 市立中学校の3年生	増減
国語を受けた人数	3,664 名	3,256 名	-408名 ※私立中学校への進学等による

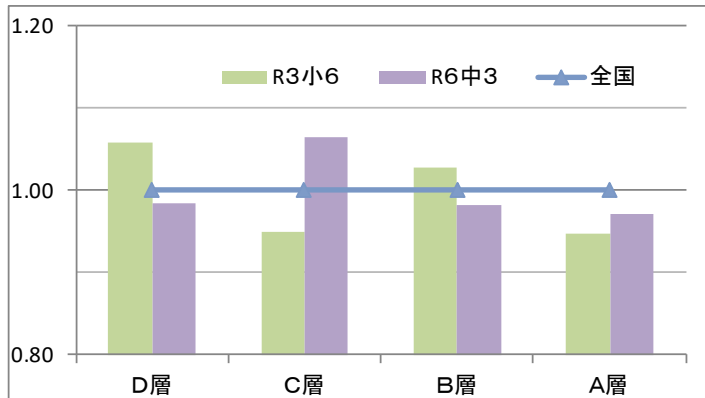
標準化得点(全国平均を 100 とした指数)と4つの学力層の推移

標準化得点



	国語	算数/数学
R3小6	99	100
R6中3	100	100

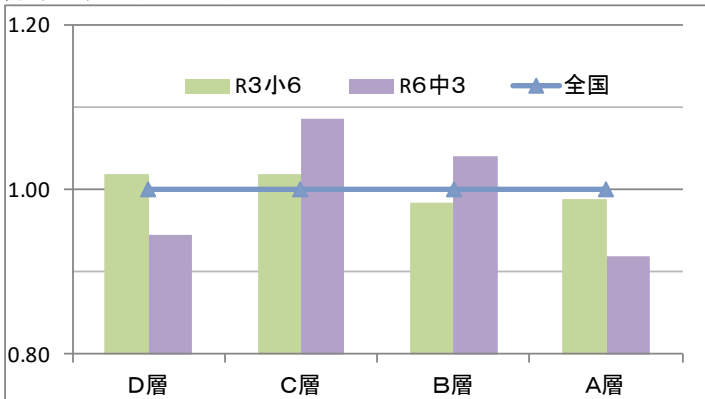
国語(小/中)



(松戸市の値) ÷ (全国の値)

	D層	C層	B層	A層
R3小6	1.06	0.95	1.03	0.95
R6中3	0.98	1.06	0.98	0.97

算数・数学(小/中)



(松戸市の値) ÷ (全国の値)

	D層	C層	B層	A層
R3小6	1.02	1.02	0.99	0.99
R6中3	0.95	1.09	1.04	0.92

【傾向と課題】

同一集団を比較したとき、学力層の「底上げ」は図れているといえます。

また、D層・A層の割合が減り、B,C層の割合が増えています。課題は、「A層の引き上げ」といえます。

児童生徒質問調査と学力の関係についての分析及び考察

以下の回答をした児童生徒は、正答率が高い傾向にあります。

※質問は内容ごとに分けて記載しています。特に相関がある項目に【★】をつけています。

主体的に学習に取り組む態度(自己調整力・粘り強さ)の育成に関する質問

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、取り組んでいた【★】

授業で、自分の考えを発表する機会で、うまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫していた【★】

学習内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている【★】

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができている

総合的な学習の時間では、自ら課題を立てて情報を集め整理し、発表する等の活動に取り組んでいる【★】

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている【★】

国語の問題では、解答を文章で書く問題について、最後まで書こうと努力した【★】

算数・数学の問題では、言葉や数、式を使って、求め方等を書く問題に、最後まで解答を書こうと努力した【★】

対話的な学び・協働的な学びの実践に関する質問

学級の友達と話し合う活動を通じて、考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている【★】

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる

個別最適な学びの実践に関する質問【特に数学に効果的】

授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた

教科横断的な学習の取り組みに関する質問

授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた【★】

タブレット等の ICT 機器の使用に関する質問

授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、ほぼ毎日使用している

学習の中で ICT 機器を活用することは、「分からないことがあった時に、すぐ調べられてよい」と強く思う

規則正しい生活習慣の確立に関する質問

朝食を毎日食べている

毎日同じくらいの時刻に就寝、起床している

平日、テレビゲーム(PC ゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマホのゲームも含む)を全くしない【★】

平日、テレビゲーム(PC ゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマホのゲームも含む)を1時間以内する

平日、平均して30分以内、携帯電話やスマホで SNS や動画視聴などをする(学習やゲームは除く)

平日、平均して30分以上1時間以内、携帯電話やスマホで SNS や動画視聴などをする(学習やゲームは除く)

課題解決や考えの形成のために他者の意見を取り入れることに関する質問【特に数学に効果的】

学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる

他者に対する思いやりや協力する姿勢の形成に関する質問

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

人の役に立つ人間になりたいと思う

分析から見える、学力向上に向けての方策

学校では

- ◆児童生徒が自ら「学習したい」「知りたい」と意欲がわく、導入などでの内容の工夫・改善をする
- ◆個々の児童生徒の理解に沿った学習支援を行う（「個別最適な学び」の具現化）
- ◆授業においては児童生徒自身で学習課題を作り、協働しながら課題解決に向かうよう工夫する
- ◆「学習した内容」と「普段の生活や将来」を結びつけた、まとめや振り返りの活動を取り入れる
- ◆分かった点・分からなかった点を見直し、次の学習につなげられるような授業展開を取り入れる
- ◆話し合う活動を通じて、自分の考えを深め、新たな考え方に気付けるように工夫する
- ◆授業では次のような場面を設定し、言語活用科のスキルを活用できるようにする
 - ・自分の考えを書いたり、発表したりする
 - ・理由や根拠を説明する
 - ・相手の考えを最後まで聞き、整理する
- ◆問題の解き方がわからなくても、最後まで諦めず、いろいろな方法を考えるよう指導する
- ◆家庭学習の充実に向けて、家庭との連携を図る（e-ライブラリ等の家庭学習ツールを活用する）
- ◆児童生徒が達成したことや達成するために努力したことを称賛する
- ◆総合的な学習の時間や特別活動の充実を含め、教科等横断的な視点での授業改善を行う
- ◆ICT（動画やデジタル教科書等）を効果的に活用した、分かりやすい授業を実践する

家庭では

- ◆朝食を食べることや決まった時間に寝起きすることなど、生活習慣を身につける
- ◆学校の授業時間以外に勉強する時間を確保する
- ◆携帯電話・スマホ、テレビ、ゲーム等の時間を調節できるよう約束を決める
- ◆本や新聞を読む習慣をつける

教育委員会では

- ◆学校における学力向上を目指した取り組みを積極的に支援する
- ◆教員の指導力向上を目指した効果的な研修を実施する
- ◆言語活用科の学びが、教科の学習に活用が図られるようにする
- ◆調査の分析結果を情報提供し、各学校における実態分析や指導改善を推進する